

戦後半世紀を優に超えた今日に至るまでなお未決着な戦争認識問題の存在を我々に教えている。

そこで我々がこれを考察するために、碑の建立側より中田清康氏、反対し続けている側より山口隆氏と、「聖戦大碑」を挟んで両極の立場の方に論考を寄せていただいた。なお両氏ともに直接間接に言及しておられるが、「聖戦」の本源は天皇制にある。

「聖戦大碑」が示す戦争認識問題を考察するには、天皇制や天皇の戦争責任についての考察もまた不可避であろう。これに関して、河西秀哉氏（京都大学文書館）に論考を寄せていただいている。また、戦争認識問題をめぐっては、民衆レベルにおいても被害のみならず加害の側面から捉え直そうとする動き

が日本各地で起きている。その一例として、広島大学文書館の石田雅春氏には、ヒロシマにおける被害と加害についてまとめていただいた。

最後に、この特集では中国や戦争などの呼称について、寄稿者の表記に一切の校正を加えていないことを申し添えておく。呼称もまた寄稿者の立場を明確に表わしており、それへの校正は寄稿者の主張を歪曲することになるためである。それぞれの主張をありのままに掲載し、読者諸賢に戦争認識問題を考える上での題材を提供すること、これが本特集の最大の目的である。それが達成されるか否か、その責任は編集をつとめた私に帰するが、諸賢の判断に委ねたい。



大東亜聖戦大碑
建立委員会実行委員長
中 田 清 康

大東亜聖戦大碑と 私の歴史観

我が国の現状を見ると、尊貴な祖国を冒瀆する醜状は目を覆わしめるものがあります。日本の真価は、悠遠の歴史と輝く伝統であり、祖先以来営々と培われてきた祖国の足跡と、業績への誇りであります。その忘れてはならない日本的価値が、老獪なる占領政策によって歪曲否定され、それに迎合する国内反日勢力と、これを利用する近隣諸国の策動によって、年とともに見失われてゆきました。このまま推移するならば、愛国心喪失、道徳荒廃によって、病根は日と共に深まるばかりであります。

これを憂え、私たちは昭和37年、「日本をまもる会」を発足させ、祖国の真価を護持・顕現すべく努力して参りました。ところが近年に至り、大東亜戦争を侵略・加害者の立場で捉える敵国史観が猖獗する惨状となりました。誇るべき自国の歴史を忘却・否定することは、国家の名誉を傷つける最も愚かなことであり、諸外国からも軽蔑されていることも判らず衆議院で謝罪決議をやり、首相までが亡国の精

神状態でペコペコするばかりであります。

我が国の前途について、悲観と絶望の織りなす昨今ですが、この謀略に深く毒された恥ずべき状態を解毒・克服するため、大東亜戦争と日本の真姿をすべての人々に訴えると共に、長く後世に遺すべく、私共は聖戦大碑建立を決意しました。大東亜戦争こそは民族の総力戦であり、勝敗を越えて日本歴史の精華が凝集したものであります。一挙に欧米植民地勢力を撃壊した緒戦の戦果、全戦線における玉砕戦の壮絶とあいつぐ特攻突撃、玉音放送と共に行われた整然たる終戦にみる天皇の御稜威、戦中から戦後にかけて起こったアジア独立の波及はアフリカにも及び、史上前例を見ない世界変革の遺産と業績を残しております。この偉業を讀え、素晴らしい真実を迷える現代に伝え、末永く子孫に残すべきことは、私共の重大なる責務であります。

大東亜戦争は平和を希う我国が、共産主義謀略と欧米侵略諸国の挑発によりやむなく立ち上がった自存自衛の戦いであります。衆寡敵せず敗れたが、結果的にはアジア諸民族開放の宿願が達成されました。戦いに敗れ悲願がかなえられたためしは、古今東西人類史上曾てその例をみません。タイ国のククリット・ブラモード首相が新聞記者当時、「日本は身を滅ぼして仁をなした」と述べていますが、けだし至言であると思います。以上から、天意天命による戦いであったとする以外に道はなく、聖戦たる所以も

またここにあるのであります。

さて、世に様々な碑がありますが、聖戦大碑は単なる慰霊顕彰のみの碑ではありません。即ち、戦後よこしまな者達が、この聖戦を他民族を苦しめた侵略戦争にすりかえるため、日本のすべてを悪として断罪しました。この策謀によって亡国憲法が押しつけられ、教育・報道・出版はすべて彼らの術中に陥り、古来温和寛容の大和民族なるが故に、これが仇をなし、たやすく奸計にはまり、今や国民の大多数は、本来の精神を失い、亡国の状態を呈しています。

この悲しむべき現状から、人びとの覚醒を促し本来の姿を取り戻すため、この碑を正気澎湃の拠点たらしめ、又この尊い国を護るため、身命を賭したすべての英霊と祖先に感謝の誠を捧げ、子孫萬世に日本の真実とその使命を正しく伝え、さらに全世界の人々に、萬邦共栄の日本精神を宣揚し、以て世界恒久平和の拠点たらしむべく、聖戦大碑を建立したのであります。

さて、前述の考えを異常と思う人や、昔の日本はすべて悪であったと教えられている人たちのために簡単に近現代史私観として歴史認識を述べます。

それは、昔＝悪の認識が日本精神への大きな公害であると考えからであります。我国は戦争を好んで起し他国を苦しめた軍国主義であったとされているが、それは全く間違いであります。

軍国主義とは、軍隊をもって他国を侵略し国家を発展させるものとすれば、我国がそんな主義をもったことは一度もありません。明治時代以降、富国強兵の国策により自存自衛の軍備をもったために欧米侵略強国に侵されず、ひいては侵略抑圧されていた世界中の国々、又眠っていた風前の灯であった支那、朝鮮も救われたのであります。我国がその時代、侵略者に対する戦時体制、臨戦体制の軍備と充実した気力、国民精神の健全があったからこそ日本が安全であり得たのであり、アジアが救われたのであります。日清、日露の両戦役から大東亜戦争に至るまで父祖が祖国とアジアを救った大恩を忘れ、偏向文書を読んだだけの誤った知識しかない者が、したり顔で軍国主義が国策を誤り国を滅ぼしたとか、無謀なバカな戦争を始めたとか、昭和初期関東軍の暴走とか、又軍の局部的作戦の失敗をもってすべてを日本軍の無知無能の如く罵倒したり日本軍をあしざまに

言うことが賢明である如く浅はかな後知恵によって父祖に泥をかけるものがあとを断ちません。そののみかアジアを裏切り、共産主義と英米の術策に乗り幾多日本同胞を死地に追いやった蒋介石を大恩高德の士の如く讃えたり、平和を求める日本を戦争に引きずり込み、無差別爆撃や原爆投下の非人道で戦勝国となり、占領政策でこのように日本人の心を壊した米国を戦後民主主義と食糧を送ってくれた救世主大恩人の如く賞賛するものが殆どであります。又今だにその与えられた亡国憲法による民主主義体制を金科玉条と頂いて居ること自体、その愚かさははかり知れません。

又、日本軍と蒋介石国民政府軍をあくどい謀略によって戦わせた戦争犯罪の張本人というべき中共であるにかかわらず、日本が中国人民をひどい目に遭わせ被害を与えたとはばかり思いこんでいる人が殆どであります。その上、朝鮮を侵略強奪し植民地にして苦しみばかり与えたなどなど、日教組・左翼勢力、又それに思想占領された報道機関によって、戦前の父祖はアジアにひどいことをして苦しみばかり与えて来たただけ教えられ、貢献した多くの真実を全く教えられず誇りなき衆愚の日本人となり果てているのであります。

関連して朝鮮について私観を述べます。過日テレビで金嬌老が小学生のとき民族差別で、梅干弁当をひっくり返されたとか、大きく写し出されておりましたが、差別とイジメを強調するためだろうがバカバカしいことであります。その正反対のことを述べます。

私の小学校同級生に都鳳龍（トホリュウ）が居てトーサン、トーサンと呼ばれ人気者でありました。彼は毎日梅干ならぬ醤油をかけたご飯だけ持参して居ましたが、弁当時間には必ず級友の旨そうなおかずをつまんで歩きました。トーサンに玉子巻や干鰯をとられても誰も腹を立てず、皆喜んで分けていたのであります。それは六年生のときであったが、私達は民族差別など少しも感ずることはありませんでした。同和の如く殊更に泣かん子を泣かす様に採り上げるからおかしくなるのであります。又、以前北國新聞“地鳴り”に「Xデーが来ないことを祈る」と31歳の投書が載っていました。こんなものを出す記者も、投書子も当時を知らぬのだから目くらまを

たてることもないのですが、知らぬ人が読めばほんとうにするのだから教えて置かねばなりません。それは日本人が朝鮮人をひどい目にばかり合わせたから、そのウラミでテポドンが日本へ向くのはあたりまえといった論理であります。知らぬにも程がありますし、又そんな教育をして居るのが日本だけでなく、韓国、北鮮みなそうだとすれば、それは誠に不幸なことであります。

もう一例挙げます。私の中学二年生の頃でありましたか、朝鮮人の部隊長が日本兵をひきつけて、支那軍を打ち破り金鴻勳章を貰ったということが新聞に載り評判になりました。朝鮮人は鼻高々大喜びであり、一年先輩の朝鮮の生徒が喜び勇んでいたのが、私も嬉しかったことを思い出します。又昭和17年頃、親友であった都鳳龍は、日本名星山直一になって喜んでいたことも懐かしい思い出であります。

在満の朝鮮人は、だれもかも日本名に進んでなり日本人だということを誇りにして居たのであります。500年余りに亘り支那に属国扱いされ、朝鮮人といえば、支那人にバカにされ続けてきたことを思えば当然のことであった。

日本から巨額の血税をつぎ込み、鉄道、橋梁、工場、港湾、治山治水、又京城帝国大学など内地以上の教育施設の充実建設等々、つぎ込まれた巨大な社会資本は民生向上に著しい貢献をなして居るのであります。

日本の影を消すと言って近年朝鮮総督府を破壊撤去しましたが、児戯にも等しいものでありましょう。ならば日本から与えられた鉄道も橋も、工場も、学校も治山治水まですべて破壊して始めから出直せばよいのです。先祖のなしたやむなき條約による併合がそれほど不満なら、相変わらず支那の属国であるかロシアに侵略併呑された方がよかったのだろうか、身勝手にも程があります。

最後に石川県の大物代議士の歴史認識の一例をあげて置きます。平成15年11月9日行われた総選挙前に、毎日新聞により地元代議士候補者全員にアンケートがなされております。それは私共がその3年前に建てた大東亜聖戦大碑の建立存在が「よいことか」

「よくないことか」という設問でありました。先述の様に聖戦大碑は、我国が米英と戦った大東亜戦争を米国が侵略者として茶番劇の東京裁判で我国を犯

罪国家としたことから、祖国の過去がすべて悪とされ我国のよき伝統文化が殆ど壊されている根源となっていることから、その間違いを糺し、正しい日本を再生させる拠点とするため、私は故草地貞吾先生を委員長に頂き、全国津々浦々から赤誠万灯を集め建立された憂国至高の巨碑であります。その建立を左翼諸政党が否定することは彼等の亡国思想からすればあたりまえだが、当県自民党の大物瓦力氏（当選10回、元建設大臣・防衛庁長官等を歴任）、いわば国家の中枢を占めた人物の回答が許せません。その様なものは「好ましくない」と述べたのであります。彼は又「石川県遺族会」の会長（彼も遺族）であり、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の会長でもありました。そこで私は、これを許すことが出来ず、「大馬鹿者、遺族会長であり乍ら貴様の父親も含め英霊を侵略戦争の犬死にして鎮魂できるか、うつけ奴、我等の父祖兄弟は間違いなく正義のために戦った、よく勉強し日本人になれ」と書き送り強く抗議したのであります。この許すべからざることを言ったのもすべて戦後教育報道の結果であり、彼等を責める以上に、この様な国家意識希薄な愛国心なき人間達をつくり出した米国の弱体化謀略、日本人の心を崩壊せしめたその根元をこそ憎むべしでありましょう。

米英はアングロサクソン民族の思い上がりと数々の侵略を深く反省し、他文化の理解につとめ、攻撃、報復の悪循環を直ちに断たねばならない。真の世界平和は唯物的自由と民主主義が至高ではないことを知らねばならない。追従諸国も強いものにまかれる誇りなき盲従をやめ、共存共栄のため米国を説得し、日本は今こそ肇国の理想、八紘為宇の精神を大いに説くべきときなのであります。

